

平成18年度 JICA 教師海外研修（派遣国：マレーシア）実践報告書

- 1 タイトル：平成18年度マレーシア研修旅行事前学習
- 2 氏名：桐山葉子
学校名：京都府立北稜高等学校 担当教科：英語
- 3 実践科目：ロング・ホーム・ルーム 時間数 3（50分授業）
Active English I 時間数 1（50分授業）
北稜エッセイ I 時間数 1（50分授業）
- 4 対象生徒・学年：普通科第Ⅱ類文理系1年 対象人数 79名（2クラス）
- 5 カリキュラム案：

（1）目的

本校では普通科第Ⅱ類文理系1年生の2クラスが、この3年間マレーシア研修旅行に参加している。本校の研修旅行の特色は、国際姉妹校であるスリ・ガーデン校との学校交流を中心としていることである。生徒は、学校交流に加え、スリ・ガーデン校生徒の家に2泊3日のホーム・ステイを体験し、マレーシアの人々の文化や生活に直接触れることができる。その経験が生徒を大きく成長させてきた。

しかし、マレーシアと日本とのつながりや、両国間の歴史について事前に充分学ぶことにより、生徒の感動がより深くなると予想される。今年度については、次の点について認識を深め、考えさせる。①日本の便利な生活が、マレーシアの熱帯雨林の消失と深く関係していること ②マレーシアの文化の多様性とそこで配慮しなければならない点 ③海外旅行をする際に意識すべきこと（パスポート管理、健康管理、公共の場でのマナー）

講義形式でなく、ワークショップ形式で、上記の3点について知る機会を設定し、生徒自身に考えさせることを目指す。

（2）授業の構成案

時限・テーマ・ねらい	方法・内容	使用教材
1 限目 テーマ：パーム・オイルと私たちの生活 ねらい：パーム・オイルと私たちの生活の関係を学ぶ。	(1) ビデオ学習 (2) パーム・オイル・クイズ (3) 感想	(1) テレビ番組「所さんの目が点」（パーム・オイル） (2) ワーク・シート
2 限目 テーマ：パーム・オイル・プランテーションと熱帯雨林 ねらい：パーム・オイル生産と熱帯雨林の消失の関係について知ること。熱帯雨林を守るためにできることを学ぶ。	(1) パーム・オイル・クイズ2 (2) フォト・ランゲージでプランテーション開発と熱帯雨林の関係について、考える。 (3) 私たちが熱帯雨林を守るためにできることについて考える。	(1) ワーク・シート (2) 写真①、② (3) 資料 (スライド・ショー)

3 限目 テーマ：あなたならどうする？ ねらい：飛行機やホテルでの基本的注意事項確認。	(1) グループ・ワークで、様々な事例について、考える。 (2) グループごとの発表。 (3) 教員からの確認。	ワーク・シート
4 限目 テーマ：クイズ・あなたならどっち？ ねらい：旅行中の様々な場面での適切な対応を考える。	(1) グループ・ワークで、様々な事例について、考える。 (2) グループごとの発表。 (3) 教員からの確認。	ワーク・シート
5 限目 テーマ：マレーシアの文化と宗教 ねらい：マレーシアの文化や宗教について学ぶ。	(1) マレーシア・ボックス (2) マレーシア・クイズ (3) イスラム教について、マレーシアの生活習慣について	(1) マレーシアの物を10個 写真③ (2) ワーク・シート (3) 資料④～⑭ (スライド・ショー)

6 授業の詳細

<1 限目>

この日は、各クラスの研修旅行委員の紹介、研修旅行委員長の挨拶から授業を始めた。その後、「マレーシアと日本は、実はとても深い関係を持っている。それが何か、今からビデオで学習します。」と言って、ワーク・シートを配布した。生徒は、パーム・オイルについて、全く知識を持っていなかった。そこで、パーム・オイルの特性や生産されているマレーシアの風景がたくさん映像で提示されるテレビ番組を視聴し、ビデオを見ながら、ワーク・シートのクイズに答えが分かった問題には答えを記入するよう指示した。ビデオは約25分程度で、とてもわかりやすい内容だったため、生徒は楽しんで見ていた。パーム・オイルについて知って、その原産国がマレーシアであることに驚いた生徒が多かった。ただし、受け身の形の学習になるので、次年度からはもっと工夫する必要がある。

<2 限目>

1回目の事前学習を受けて、次はパーム・オイル・プランテーション開発と熱帯雨林の関係について学習した。パーム・オイル・クイズ2で、前回に学習したことを振り返り、その後、熱帯雨林の生物やそこで生きる少数民族、伐採された後の熱帯雨林の写真を各グループに1枚配り、パーム・オイルの生産とその写真の間にどのような関係があるかを考えさせた。少し難しかったようだが、様々な意見が出た。その後、それぞれの写真がどのようなものか、またパーム・オイルの生産とどのような関係かを説明した。また、パーム・オイル・プランテーションを開発することで、熱帯雨林が毎年約7万ヘクタールずつ消え

ていっていることも伝えた。最後に、日本に住む私たちが、熱帯雨林を消失から守るために何ができるかをグループで話し合う時間を持った。発表する時間がなく、ワーク・シートに記入することで精一杯だった。次年度からは、もう少し時間を取り、さらに踏みこんで考えたり話し合ったりする場を設定する必要がある。

<3 限目>

海外旅行が初めての生徒も多く、またパスポートの重要性や旅行中の健康管理の重要性についても生徒自身が充分知った上で行動することが、研修旅行の成功には不可欠である。そこで、ケース・スタディをグループ・ワークで行うかたちで、パスポートの意味、健康管理、旅行中の安全、公共の場でのマナーなどについて学んだ。わかりやすい例を挙げたために、生徒たちは楽しみながら取り組んだ。

<4 限目>

3 限目と同じ内容だが、さらにいくつかの事例について生徒に考えさせた。研修旅行は集団行動であり、学ぶ場であることを確認し、生徒の意識を高めるためには有効であると思われる。

<5 限目>

昨年度研修旅行に参加した生徒から、「研修旅行の前に、もっとマレーシアについて勉強すべきだった。」「トイレや食事について、もう少し事前に知っておきたかった。」という声があり、この学習を設定した。

国際理解（現代社会）の夏休みの課題で、マレーシアについて資料を読んでレポートを作成したり、9月以降の授業でマレーシアの概要について学んではいるが、マレーシアの文化の多様性や、宗教、生活習慣については、生徒の知識は少ない。そこで、12月に姉妹校スリ・ガーデン校から2週間の短期交換留学生在が本校を訪れたことをきっかけに、マレーシアの国教であるイスラム教や、イスラムの戒律などについて、話をしてもらった。その後、この授業を行った。

まず、マレーシア・ボックス。マレーシアの生活用品などを各グループに1つずつ配り、それが何か、何に使われるかを推理するゲームだ。生徒は物があると、とても興味を持って取り組む。その後、それらの物に関係する写真を見せながら、日本のマレーシア占領やイスラム教のことにも触れていく。

次にマレーシア・クイズで、首都や人口、国土面積、三大民族、主要宗教などを振り返った。関連する写真を多数提示することで、生徒は集中して取り組んだ。また、国教であるイスラム教についても、留學生の話を振り返る形で、質問を用意していたので、生徒も答えられるものが多く、その後私たちがイスラム教信者に対して注意すべきこともスムーズに理解することができたようだ。

トイレや食事についても、写真を見せながら説明することで、生徒は驚いたものの、感想を見ると「早くマレーシアに行ってみたい。」という声が多かったことから、嫌悪感なく受け入れることができたようだ。

今回の事前学習では、生徒がもっとも興味を示したのは、5限目の文化・生活に関する学習だった。何時間かかけて学習したことで、マレーシアに関する興味が高まっていたこともあるだろう。しかし、生活面で、生徒の理解しやすいことから学習を始めることで、パーム・オイルや熱帯雨林に関する学習も更に深めることができたかもしれない。次年度以降は、生徒が興味を持つ可能性が高いことから始めて、マレーシアと日本のつながりを理解させたいうえで、熱帯雨林を守っていくために私たちができることを考える方が良いだろう。

全体を通して、もっと時間をかけて、生徒が活動することを通して気づいたり学んだりするような内容を増やしていく必要がある。そのためには、年間を通した事前学習を計画していかなければならないと実感した。

<資料>



①ダガット村のまわりのニッパヤシ林



②ダガット村の家は高床式



③軍票を見せ、国立博物館の壁画を見せる



④ヒンズー教寺院



⑤お祈り部屋の存在（空港）



⑥赤十字でなく、赤い三日月の新月社



⑦モスク（サバ州）



⑧ホテルの部屋にもお祈り用の方角



⑨チャイナ・タウンのトイレ



⑩空港のトイレ 日本との違いは？



⑪マレー式食事（ダガット村）



⑫豊かな自然を活かした生活（ダガット村）



⑬マレーシアの中高生は勉強熱心



⑭休み時間は友達と仲良く